

論 說

交通機關の整備刷新のため

(高架人道と二重道路其の他)

田 川 大 吉 郎



交通機關の整備刷新は都市に於る近年の最大問題の一である。(一)何人も現在の當局者の熱心なる工夫と努力に感謝して居るが、(二)何人もその結果に甘んじてゐる者はない、(三)何とかしてこれを整理し又擴張し、混雑を防ぎ不便を除き、便利と快感とを更に増進する方法はないものだらうかと待ち望んで居る。

それにも拘はらず、これはといふ名案の現れないのは、この問題が極めて困難なからであることは

申すまでもない。

私はこゝに左の三つの案を専ら東京市を目標として述べ、諸賢の御攻究を願つて見たい。東京市に應用して相當効果のあるものなら他の都市にも推し擴げて、若干の効果があらうと察して居るのであることは申すまでもない。

- 一 高架の電車若くは汽車道を廢し、若くはそれを新設する代りに、高架の人道を設くること。
- 二 二重の道路を作ること、現在の道路の下に新道路を作り上下二線とすること。

前段の道路を作れば、此の道路は作らないでもいゝかも知れない。此の道路を作れば前段の道路は作らないでもいゝかも知れない。或は前のも作り、これをも作る必要があるとも謂へようが、いづれにせよ一の方法として、この二重道路の説を掲げて置く。

- 三 東京市のためその交通の整理擴張の目的を以て、獨立の一機關を設け、省線電車路面電車、地下電車及び乗合自動車等の全部を統一し、この機關をして交通上の全責任を負はしむること。

この機關の權能は政府の一官廳と同等のものとし、従つて今日の東京市などよりはもつと權力の大きい所とすること。

初めから斷つて置くが、私はこの三つの機關を設けて活用すれば、それで東京市の交通上の混雜と不便は排除させられて、全く便利に安全になると申すのではない。たゞそれらの幾分を充し得べきだらうかと思ふまでである。

高架鐵道を作ることには日本に於ても近來の趨勢である。東京には品川から東京驛まで、東京驛から上野驛までのそれが既に出來上つて居る外、兩國から淺草及びお茶の水へのそれも計畫されて近く實施せらるゝであらう。其の他、神戸市にも既に出來て居り、更に擴張されんとし、又大阪市にも、京都市にも、それらの計畫がある。凡そ都市計畫の行はるゝ所に於ては、路面若くは路面線の故障不便をほとんど専ら高架鐵道に依り解決せんとするの風が見える。

これは適當のことであらうか(一)費用の上から見て、(二)交通の上から見て、(三)又市民生活に及ぼす噪音雜音等の上から見て、私は、少なからぬ疑問を抱いて居るものである。

その疑問若くは非難に關する意見はこゝに述べないとして、右の如き高架の鐵道に代ゆるに、高架の人道を以てしたら如何であらう。

若しさうとすれば、その高架人道の費用は必らず高架鐵道の費用よりも廉いに相違ない。

又高架人道の噪音雜音は、高架鐵道の噪音雜音よりも低いに相違ない。それは、ほとんど無いといつても、いゝ程度になるであらう。比較にならない程の相違であらう。

且、そこを通行往復する人の數は高架鐵道の場合にくらべて、著るしく増加するであらう。それだけ多大に利用せらるゝ譯である。

且、その眺めも體裁も割合に綺麗で、人の快感を唆るであらう。高架鐵道には當人にも將た第三者にも快感といはるゝ程のいゝ感じは別段ない。

斯様に考へて、私は高架人道をいゝと思ふ者である。これを作つて見たらばと思ふ者である。そこで高架鐵道をどうするかといふ問題になるが、私はそれを廢して地下鐵道にしたいと主張する。すべて都市の鐵道は地下式にし高架式を新設しないことにし、舊來のものも成し得る限り早や目に取り壊したいと主張する。

而してその費用の問題に就ては、私は調査してゐないし、他國の調査も細かには見てゐないのであるが、大凡次の様に考へる。

(一) 高架鐵道を作るため在來の家屋敷地を買収するの費用とその場面を塞いで空しく損して居る等の費用を合算すれば、地下鐵道を建設する費用に足りそうなものである。

(二) 且地下鐵道を建設すれば、その上層の路面の値段は騰貴する。高架鐵道に利用せられた土地はほとんど無價値となり、且その隣接地の價値も低くなつて居る。

ざつと斯様に考へて、地下鐵道の費用は、その生ずる直接間接の利益で充たすことができる。その方の利益が高架鐵道の場合よりも多い。故に多く憂ふるに足らないと私は思ふて居る者である。しからばそんな様な高架人道が外國の都市には既に有るかといふ問題になれば、私はその多くを知らないが、二三の都市には既に有るらしい。私はその寫眞をいくつか見た。

以上の外に二重の道路といふことが考へられる。二重の道路とは今日現在の道路の下に、更に同じ様な道路を新設することで、現在のを二階の道路とし、新設のを一階の道路とし、一と筋の道路を二重に利用することにするのである。

パリでは既にその様な道路を繁華な百貨の位置に設け、ロンドンではテムス河沿ひの重要な地點に作りかけて居るが、更にロンドン全市にそれを作らんとする設計をもたてた。その費用はいくらかゝるか私は未だ聞かないけれど、それは多くかゝらない。比較的廉くでき又直ぐ全国的に流行することになると申して居る。

二階道路、即ち現在の道路は電車の如き、自動車の如き、急速力で駆け廻る乗物だけの用に供し——歩道が今までの通りに残ることは申すまでもない——それらの機關は絶えず駆け廻つて居り、客の乗り降りの時停車することを許すだけで、それをちつと駐めて客待ちすることを許さない。客待ちの自動車は一階の地下道に下つて、そこで駐車すべきである。

その一階の道路は貨車、荷物車等重い車の道路に充てらるのである。西洋の家は御承知の通り、大抵地下に一階或は二階を有して、そこに臺所若くは倉庫がある。新設の地下道は、自然に各商店家庭のこの倉庫に通するので、それだけ便利である。

附け加へてもう一つ便利なことは、電燈や、瓦斯や、水道や、その他の鐵管類をこの地下道に結び着けることである。今日ではそれを取りつけるために路面を掘り返して交通にも、取引にも、多大の損失をかけ、面倒をかけ費用をかけて居るがこの一階式の新地下道ができれば、そんな手数は斷じて要らないことになる。但現在の道路即ち將來の二階道に取りつけてあるそれは、一切取り拂はねばならない。取り拂はすることに規定してかゝつて居るのである。

且この地下道路にも電燈をつけて、二六時中あか／＼と明るくして置くのである。従つてそこにも商賣ができる様になる。それのできる様な設備をしてかゝつて居るのである。

私は前に高架人道として空中利用の道路を述べた。こゝに地下新道として地下利用の新道を説いた。西洋の都市は現にかくの如く空中に伸び又地中に伸びつゝある。日本の大都市も亦この兩様に伸びねばならない。差當り我が東京市は他の都市よりも先きに、この方向に伸びることであらうと私は思ふのである。

四

以上の如き方法に就て考へる外に、更に考へねばならないことは、これらの方法に就て考へ又これらを實行することの責に任ずる機關である。それは東京市であると申さる方があらうけれど、私は現時の東京市役所並びにその理事者を批評する譯ではないが、何となく不足を感ずることを禁じ得

ない。

一例を外國に求むると、ロンドンである。ロンドンの交通機關は御存知の通り市の電車もあれば、會社のバスもあり又地下電車もあり、丁度東京市のその如く、各線路向きくを異にして經營振りに連絡なきが如く、乗車賃も區々にして乗客に取り不便が少なくなかつた。それを勞働内閣は、内閣の重要政策の一として考慮を重ねたあげく、新に一局を設け、これらの諸線を統一し、その一局の一つの眼を以て、ロンドン全體の交通状態を眺め、その一つの心を以てそれらの必要に應ずる諸般の計畫を立て、紛々たる事故苦情を一掃し、一變せんと鋭意努力するに至つた。その局は自治體としてのロンドン市當局よりも重大の權限を有して居る。それは中央政府の一官廳の如きものである。さてその機關はお役所風であつてはならない、市民の交通上の便利を増し且その經濟上の發達を圖るべき一種の營利的機關である。その心持で資本を集收し、有利に經營しなければならぬ。その兩様の目的と方針を兼ねたる機關である故、それが自然に會社の如く、又政府の如く、兩方の特長を兼ねた機關になることは當然であらう。英國はロンドン市のためにかくの如き特種の機關を最近に設けたのである。

我が東京市にも亦かくの如き機關を必要としないだらうか、言ひ換ふればかくの如き特種の機關を設けて、東京市の交通の改良、刷新、整備、擴張を圖ることは、必要の施設であり、事業ではあるまいか、私は東京市の理事者達の努力、勵精を感謝するに拘はらず、省線電車あり、路面電車あり、地下電車あり、又

乗合自動車あり、その乗車賃は均一制あり、區域制あり、割合に廉いものゝある一方、割合に高いものも一方にあり、相錯綜して混雜し、連絡なく、統一なく、機敏を欠き、便利を欠ぎ、必然の要求に應じ兼ねて居る。目前の狀況を氣の毒に感じ、残念に思ひ、機關としてロンドン市のその如き力ある新しいものを得たいと希望するのである。

實はこの機關の事につき衆議院に於て政府に質問して見たのであつたが、例に依つて要領を得なかつたけれど、尙研究をつゞけ主張して見たいと思つて居る。この機關の必要か否かは廣く大方の御研究を願ひたいものである。

自動車運輸の勃興と小運送問題

中野金次郎

一 自動車の出現

西曆一八三〇年英國里曼鐵道の創始以來、茲に百年鐵軌蜿々として世界到る處陸上運送の霸權を握り、人智の發達産業の振興に寄與せし其の効果の宏大無邊なるは素より論無きことであります。